

シラバス情報

授業方法	講義・実験・実習		
系 列	自動車整備		
科 目 名	環境保全・安全管理		
必修・選択	必修科目・選択科目		
対象学科	一級自動車整備科		
年次学期・曜日・時限	3年前期	月曜日	3・4時限
時 限 数	26時限（中間及び期末試験を除く）		
担当教員名	村田 一人		
実務経験	有・無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立などの自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となる環境保全・安全管理の基礎知識についての講義を実施する。		
授業の目的	地球規模の環境保全と自動車にかかわる環境保全（例えば地球温暖化等）と、災害防止等の安全管理について講義する。		
テキスト	一級自動車整備士テキスト 総合診断・環境保全・安全管理（日本自動車整備振興会連合会 発行）		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト 範囲
第1回	地球規模の環境保全とその必要性	環境保全の現況、自動車に関わる環境問題と環境保全への取り組みについて解説する。	P103～104
第2回	資源の有効活用	自動車の3R（リデュース、リユース、リサイクル）、再利用部品について解説する。	P105～107
第3回	産業廃棄物処理の影響と対応、使用済自動車の自動車リサイクル法	産業廃棄物処理の仕組みと自動車リサイクル法について解説する。	P109～116
第4回	エア・バッグ、フロン・ガスの適正処理方法	エア・バッグ及びフロン・ガスの環境への影響と適正処理の方法について解説する。	P116～118
第5回	バッテリー、タイヤ、冷却水の適正処理方法	バッテリー、タイヤ、冷却水の環境への影響と適正処理について解説する。	P118～120
第6回	整備事業場などにおける環境保全	自動車整備工場の環境対応について解説する。	P121～125
第7回	環境保全演習問題（国家試験）	過去の国家試験問題について解説する。	
	中間試験	第7回までの授業に関する筆記試験	
第8回	安全管理の意義	安全管理の重要性について解説する。	P129
第9回	災害のあらまし	災害発生の仕組み及び不安全状態と不安全行動、ハインリッヒの法則について解説する。	P131～134

第 10 回	災害防止	整理・整とんの効果と各種自動車整備機器の作業上の注意事項について解説する。	P135～140
第 11 回	防火の知識	防火の知識及び危険物の取扱、応急手当についての心得について解説する。	P140～144
第 12 回	安全管理演習問題（国家試験）	過去の国家試験問題について解説する。	
第 13 回	環境保全・安全管理総まとめ	J A M C A 全国統一模試、作成問題について解説する。	
	期末試験	第1回～第13回までの授業内容に関する筆記試験	
到達目標	地球規模の環境問題と自動車にかかわる環境問題、災害防止等の安全管理について理解する。		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、中間試験並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。		
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が50点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p>中間試験の点数 30%</p> <p>期末試験の点数 50%</p> <p>平常点 20%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が70点以上である場合、以下により評価する。 60～69点=可、70～79点=良、80～89点=優、90点以上=秀</p> <p>70点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで70点以上のとき履修を認定し、成績は70点=良とする。</p>		
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が70点未満の場合。		